



甚大な被害が想定された内閣府による8月末の被害想定ですが、住宅の耐震化率を上げることにより揺れによる全壊棟数が減少することや、いち早く避難を開始し、津波避難ビルなどを有効に活用すれば、津波による死者数を大幅に減らすことができることなど、減災効果も示されました。愛知県においても、住宅の耐震化率を100%にあげ、全員が発災後すぐに津波からの避難を開始するなど、最大限の防災対策を見込んだ場合には、死者数が2万3000人から3200人に減少するという効果が示されています。



# ①住宅の耐震化

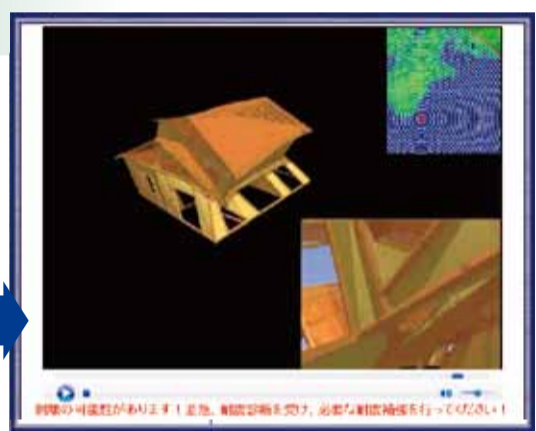
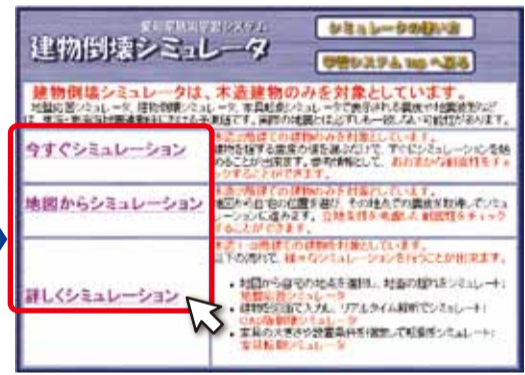
建築基準法の改正により、耐震基準が強化される前の昭和56年5月31日以前に着工された住宅については、阪神・淡路大震災などでも、倒壊など甚大な被害を受けている住宅が多く、耐震性が不十分である恐れがあります。このような住宅について、市町村では無料耐震診断を行っています。耐震診断を受け、「倒壊の可能性がある」と診断された場合は、建替えや耐震改修を検討してください。市町村では、木造住宅を対象に耐震改修費の一部を補助しています。補助金額や補助率は市町村により異なりますので、詳しくはお住まいの市町村へお問い合わせください。(一部の市町村では非木造住宅についても耐震診断や耐震改修の補助をしています。) 常日ごろから、自宅やその周りをチェックし、老朽化や痛み、強度の弱い部分などが見つかったら、必要に応じて補強をしましょう。



お住まいの市町村問い合わせ先一覧(愛知県建築物地震対策推進協議会ホームページ) <http://www.aichi-jishin.jp/before/mokuzo.html>

# 愛知県防災学習システム

愛知県では、木造建物の倒壊危険度を判定することができるシステムをインターネットで公開しています。ぜひご利用ください。



「建物倒壊シミュレータ」では、簡易な方法からより詳細な方法まで3種類のシミュレーションの方法を用意しています。

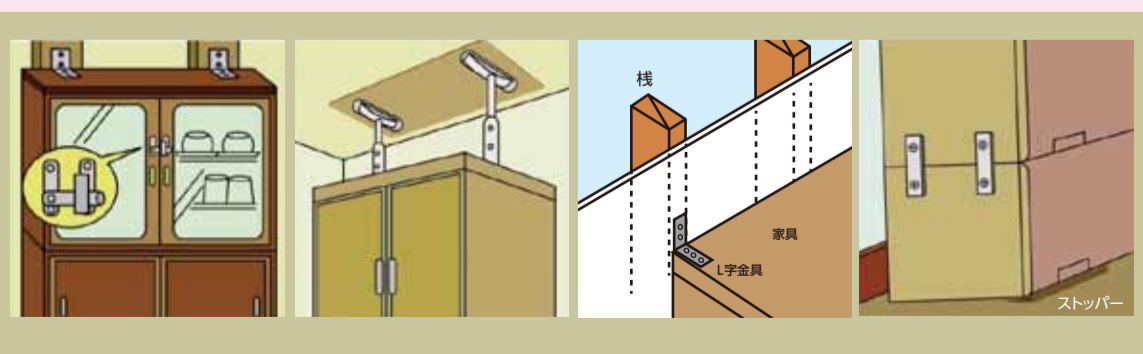
画面の案内に従いながら、建物条件などを入力していくと、建物が地震の影響を受ける様子を動画によりご覧いただくことができます。倒壊の可能性がある場合、耐震改修を検討してください。

このアドレスにアクセスして、「建物倒壊シミュレータ」をクリックしてください。

愛知県防災学習システム <http://www.quake-learning.pref.aichi.jp/>

# ②家具の転倒防止

住宅の耐震化と比べて安価な方法として、家具の転倒防止があります。家具の転倒防止対策としては、配置を工夫することや金具などで壁に固定することなどがあります。まずは家の中で安全な空間を確保することが大切です。特に寝室にはなるべく家具を置かないようにし、部屋の出入口、階段などには物を置かないようにしましょう。安全な避難経路を確保するために、出入口をなるべく開けやすいように、布団を敷く場所、ベッドのある場所に倒れてくるものはないか確認しておくことが大切です。寝ているときは、誰もが無防備になります。もし、普段寝ている場所に倒れてくるような家具がある場合、その家具がどの方向に倒れる可能性が高いかを考えて、その方向を避けて寝る位置を決めたり、その家具の高さ以上の距離をとって寝る位置を決めましょう。次に、家具の設置の仕方にも気をつけましょう。家具は前のめりよりも、下側を前に出して上側を壁につけて後ろもたれ気味に置くことで倒れにくくなります。特に食器棚や本棚などの奥行きが浅く、背の高い家具に気をつけましょう。また、下段に重い物を、上段に軽いものを収納することも効果があります。さらに、転倒防止器具などで家具の固定をしましょう。壁にL字金具等で固定する方法や上にポールを、下にストッパーを入れる方法などがあります。



固定しましょう。棧の入っていない部分に固定しても効果が期待できません。また、ポール式の器具は、しっかりと突っ張ることができれば効果的ですが、天井の素材がもろい場合などは、天井と器具の間に板をはさむとしっかりと固定することができそうです。忘れがちなのが、開き戸タイプの家具の扉をストッパーで固定することです。地震によつて扉や引き出しが開き、中身が飛び出すことで怪我をしたり、逃げ道をふさがれたりするのを防ぎましょう。

お住まいの市町村家具等の転倒防止対策担当窓口一覧 <http://www.pref.aichi.jp/bousai/kagutaisaku-madoguchi.pdf>